

国語 第3学年 漢字の広場2

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。この後に貼る指導案を、私の学級に合わせて書き直してください。最初に、児童の既習事項と今の学習状況、読む・書く・話す・聞く際に必要な配慮、学校の年間計画と使える時間、研究授業で確かめたいこと、使える資料と道具を一項目ずつ質問し、回答を待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、次のねらいを保ってください。既習漢字を使って人の行動を書き、主語と述語の対応を確かめる。目標・評価規準・単元計画・本時の活動を対応させ、本文を省略せず書き直してください。教材本文・台詞・挿絵・教科書固有の問題文は転載しないでください。教材名と公式の総時数は出典を照合し、独自の時間配分は授業案として区別してください。人数や分数を事実のように補わず、回答がない条件は未確認としてください。児童の反応は予想と明記してください。三重の指導案の見出し順を保ち、先生向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更箇所と、その根拠となった回答・出典を最後に示してください。直す対象の指導案を以下に貼ります。

———ここから直す対象の学習指導案———

第3学年 国語科学習指導案

1 単元名「漢字の広場2」 教材名「漢字の広場2」

2 単元の目標

第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。〔知識及び技能〕(1)エ)

間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。(B(1)エ)

既習漢字を使って人の行動を書き、主語と述語の対応を確かめる学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。〔知識及び技能〕(1)エ)

〔思考・判断・表現〕①「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①既習漢字を使って人の行動を書き、主語と述語の対応を確かめる学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

既習漢字を使って人の行動を書き、主語と述語の対応を確かめる。この教材では、既習漢字を使った場面の文章と、字形・用法を確かめた記録を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

誤りを「字形」「読み」「意味・用法」に分け、本人が確かめる箇所を選ぶ。点画を比べる、音読する、文を作るなど誤りに合う方法で再確認する。想定する難しさは、何度も書けば意味も使い方も分かると思う、全員に同じ練習を課す。評価では、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えているかを、既習漢字を使った場面の文章と、字形・用法を確かめた記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

第1次 第1時：○誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。教科書の当該教材で扱う絵や場面を手元で参照し、既習漢字を使って様子を文にする。評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第2時（本時）：○教科書の当該教材で扱う絵や場面を手元で参照し、既習漢字を使って様子を文にする。読み手が受け取った内容を確認、字形・読み・文中の意味を見直す。既習漢字を使って人の行動を書き、主語と述語の対応を確かめる。読み手が受け取った意味を確認、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。評価：思①（発言・活動中の記録・作成物）

6 本時の指導 (2/2)

(1) 本時の目標

間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えることができる。(B(1)エ)

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：誰に何を伝えるかを確認め、書く材料や最初の文を出す。

○「だれがしたことを表す文に、その漢字を使いますか」

【めあて】既習漢字を使って人の行動を書き、主語と述語の対応を確認める。

予想される児童の反応：・漢字だけでなく文にすると使い方が分かる。

指導上の留意点：最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。

【展開】

学習活動：○「だれがしたことを表す文に、その漢字を使いますか」

教科書の当該教材で扱う絵や場面を手元で参照し、既習漢字を使って様子を文にする。読み手が受け取った内容を確認め、字形・読み・文中の意味を見直す。既習漢字を使って人の行動を書き、主語と述語の対応を確認める。

読み手が受け取った意味を確認め、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。

予想される児童の反応：・漢字だけでなく文にすると使い方が分かる。

・同じ読みでも、この文に合う字を選びたい。

指導上の留意点：誤りを「字形」「読み」「意味・用法」に分け、本人が確認める箇所を選ぶ。点画を比べる、音読する、文を作るなど誤りに合う方法で再確認する。

想定する難しさ：何度も書けば意味も使い方も分かると思う、全員に同じ練習を課す。

評価では、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えているかを、既習漢字を使った場面の文章と、字形・用法を確認めた記録と活動中の発言・操作から確認める。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

評価：思① 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えている。(発言・活動中の記録・作成物)

【まとめ】

学習活動：【まとめ】問いへの答えを、今日確認めた言葉や表現を含めて話す。

既習漢字を使った場面の文章と、字形・用法を確認めた記録を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確認める。

予想される児童の反応：・同じ読みでも、この文に合う字を選びたい。

指導上の留意点：教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確認める。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。

評価：態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画 (縦書き・右から左へ)

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「だれがしたことを表す文に、その漢字を使いますか」。中央は、既習漢字を使った場面の文章と、字形・用法を確認めた記録に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確認めたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

